

越天楽今様

はるのやよいのあけぼのには
よものやまべをみわたせば
はなざかりかもしらくもの
かからぬみねこそなかりけれ

慈鎮和尚

春の弥生の曙に見渡せば
四方の山辺を白雲の
花盛りかもぬ峰こそなかりけれ



春霞の中に見渡す丹沢山系の山肌に、まさにこの歌に歌われているような「白雲」を思わせる桜の花盛りを見ることができ、平安時代の歌人の心が偲ばれる。

慈鎮和尚：（1155 - 1225）平安時代末期から鎌倉時代初期の天台宗の僧
慈円の諡号。歴史書「愚管抄」を記したことで知られる。

歌人としても有名で、「拾玉集」がある。小倉百人一首では「おほけなく
うきよのたみに おもふかな わがたつそまに すみぞめのそで」の歌で知られる。

越天楽今様：越天楽のメロディーに歌詞を付けたものが有名であるが、「春の弥生」は、山田耕作の一年後に東京音楽学校を卒業した信時潔が混声合唱曲として
創ったものがある。日本古来の雅やかな美しさを持った旋律と、荘重な和声の響きを持つ。